經濟論叢

第100巻　第5号

山本安次郎教授記念號

献　　辞……出口勇蔵
Supercargo（上乗（うわのり），貨物上乗人）について……佐波宣平　1
経営哲学……高田馨　15
経営経済学と人間問題……市原季一　34
経営管理における過程理論の性格 (3) ……降旗武彦　52
経営経済と維持計慮……鈴木和蔵　71
経営財務論の動向とその基礎構造をめぐる一考察……加藤勝康　90
経営の基本理念と日本的経営……山城章　110
バーナードのリーダーシップ再論……田杉競　131
山本安次郎 教授 略歴・著作目録

昭和42年11月

京都大學經濟學會

献　　辞

本年，われわれはすでに中谷實教授の記念号を発行したが，いままた，評議員・山本安次郎博士のために，退官記念の特集号を編集することになった。

山本教授は，本号末尾の略歴が明らかにしているとおり，本学には選科生として入学されたが，学部卒業と同時に，小島昌太郎教授の指導をあおいで，経営学を専攻すべく，大学院に入学せられた。当時，わが学部では経営学を軽んじる風がないでもなかったのであるから，この青年学徒の決意には並なみでない悩みがかくされていたといってよいであろう。

教授は早くから立命館大学の教壇に立たれた。そして累進して同大学の教授となられたのは昭和13（1938）年のことである。しかしやがて興亜院の要請にこたえて，東亜の経済，ことにその金融事情を調査研究され，つづいて満州国の建国大学の教官となられて，居を中国の東北地区にうつされた。このことは，教授のためには，終戦と同時におそうた研究生活の破壊となっただけではなく，シベリアでの抑留生活が教授の健康をむしばむ原因となるという，悲運の種を宿していた。帰国ののち，滋賀大学の経済学部に職を奉じられる時に，教授は相当に長い療養の生活を余儀なくされたと，聞いている。教授の不屈の研究熱は，しかし，病魔に打ち克ち，経営学の研究の成果は続々と発表せられ，昭和29（1954）年に公刊された成果のひとつ，『経営管理論』によって，教授は31（1956）年に学位を授与された。

昭和34（1959）年に経営学科が新設せられたわが学部は，その学科を荷って立つ人材を求めており，教授はえらばれて本学に招聘せられ，今から満6ケ年以前に，学部の「経営学原理」講座の担当者となられたのである。

教授の学風には独自のものがある。ドイツ・フランス・アメリカにおいて発達した経営学の理念は，教授独自の哲学的所見によって濾化され，批判的に摂取されて，自家薬籠中のものと化している。そしてその立脚地はわが国に独自

性をほこる西田哲学に近い主体性の哲学であるとは，世人のいうところである。教授の学説には難解の評があるが，独創性に富めばこそと，いうことができよう。教授は研究のかたわら，博い学識と深い思慮とをもって後進の養成に力をつくされた。もしわが経営学科に後顧のうれいがないとするならば，教授のそれへの貢献が尠くなかったことを思うべきである。

教授を評議員に迎えて7年，この期間は永いというわけにはいかない。むしろ短かいといわねばならぬ。このとき教授を定年退職者として送り出すことは痛惜の至りである。ねがわくば御自愛を専らにして，独自の経営学の体系の樹立のためにさらに研鑽を積まれ，学界にさらに大きな足跡をのこして，われわれ後進に範を垂れたまわんことを。

昭和42年10月19日

評議員長　出　口　勇　蔵